

# 朝をひらく

朝寝坊の住職が、お盆の3日間だけは超早起になる。午前3時半に起床、読経後、カーン、カーンと堂内の息子たちお盆スタッフを振鈴で起こす。しかし、息子や娘が朝、親に起こされるのは、このお盆の時だけなのである。

## 子育て

永田 円了  
真国寺住職



こともあった。でも「お母さんが起こしてくれなかったから」という言葉は、子供の口からは一度もでなかった。

一日を人の一生とするなら、朝は人生の始まり。人生のスタートにおいて、自分で自分の行動に責任を持ち、自分の失態を人のせいにしてはならない。このしつけは大成功であった。

その2、「姉弟ゲンカするとき、必ず年下を叱る」。どちらが悪い

かはどうでもいい。兄弟ゲンカなんて些細なことで起こるもの。要は上をたててやることである。多くの場合「お姉ちゃんでしょ、お兄ちゃんでしょ」と、年上をいさめる。そうすると、親が去った後、お兄ちゃんの方は「お前のために俺が叱られたんだ！」と、今度はその鬱憤を弟にぶつけイジメに発展する。大人社会でもよくあることである。

しかし下を叱ることで上は思う。「俺が悪かったのに、代わりにお前が叱られてくれた、ゴメンな」と、下をいたわる。結果、兄弟の人間関係に温かいものが生まれる。

その3、「子供目線で接する」。言うは易し、行うは難

し。思い通りにならない子供の失態を前に、親はつい上から目線で爆発する。何か手立てはないのか、ある。自分の子供の頃の写真を引き伸ばして見える所に貼っておくこと。子供に「ちよっと待った、お前だって小さい時はドジなことばかりしていただろう！」と、写真はつぶやいてくれる。

親というものは、自分が果たせなかった夢を子供に託す。夢を託すという響きはいいが、要は自分の思い通りに子供を支配したいだけなのである。今思うに、この子育て三原則は、子供を親の支配から解放し、一人ひとりが持つべき知れない可能性の芽が実を結ぶときを待つこと。辛抱強く待つ。親ができることは、これしかない。

# 朝子供を起こさない